

令和4年度リハ専門委員会報告会

リハビリテーションにおける 間接的介入の実態調査

全国病院経営管理学会 リハ専門委員会
リハ専門委員 根本達也（安房地域医療センター）

実施要項

▶ 目的

- ▶ 会員病院のリハ部門に対する間接的介入の実態を把握し、各リハ部門が間接的介入のあり方や課題を明確化して、より効果的かつ効率的なリハ提供体制を構築する資料として提供すると共に、会員病院間の相互交流に役立てること。

▶ 実施期間：2022年7月4日～7月15日

▶ 対象

- ▶ 全国病院経営管理学会の会員病院のリハ部門 部門長、理学療法士、作業療法士、または言語聴覚士

▶ 方法：オンラインアンケート（Googleフォーム使用）

▶ 倫理的配慮

- ▶ 本調査は、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針ガイダンスの「既に匿名化されている情報」に当てはまる調査であるため、本倫理指針の対象とならないものと判断した

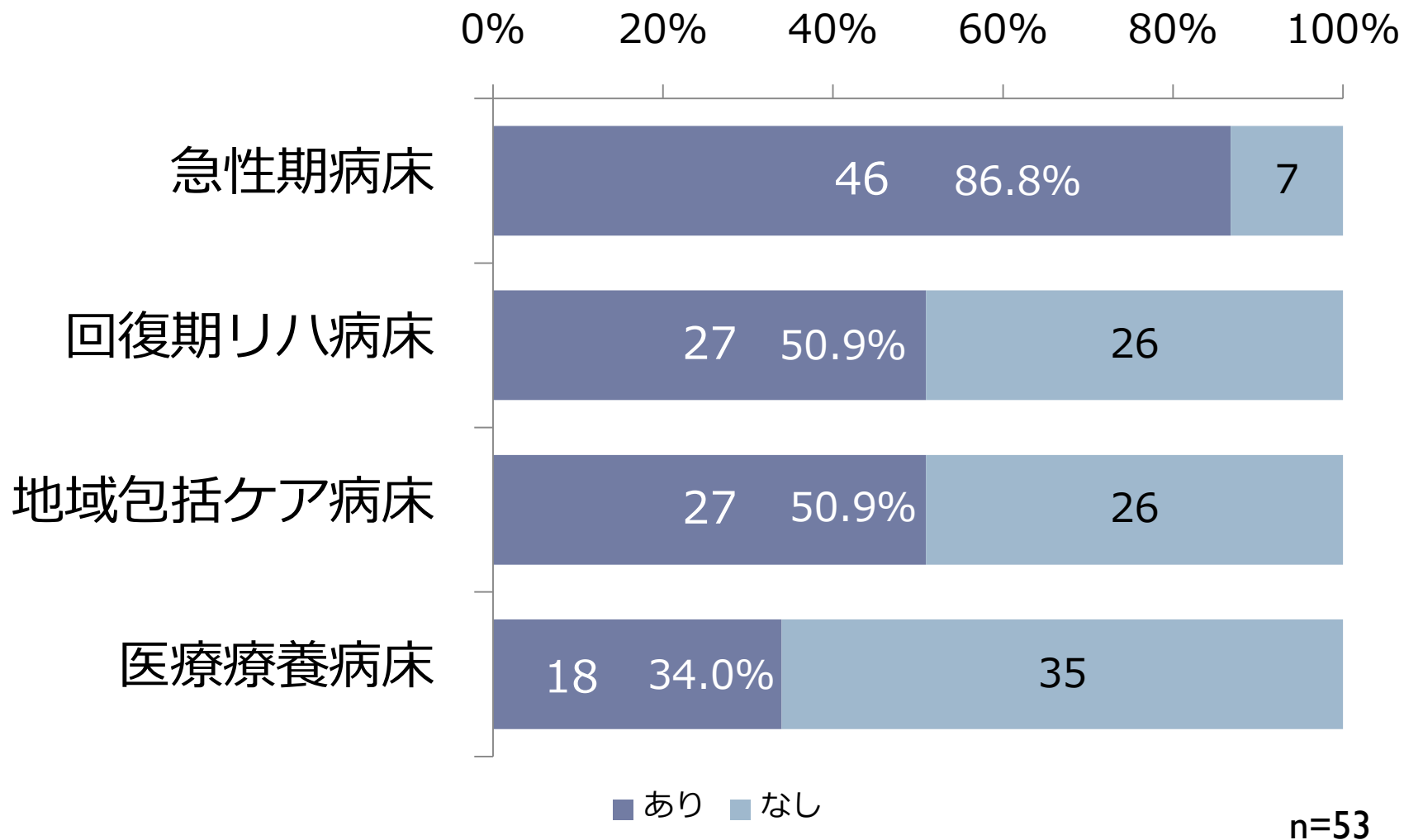
▶ 回収率：28.8%（53/184施設）

アンケート設問内容

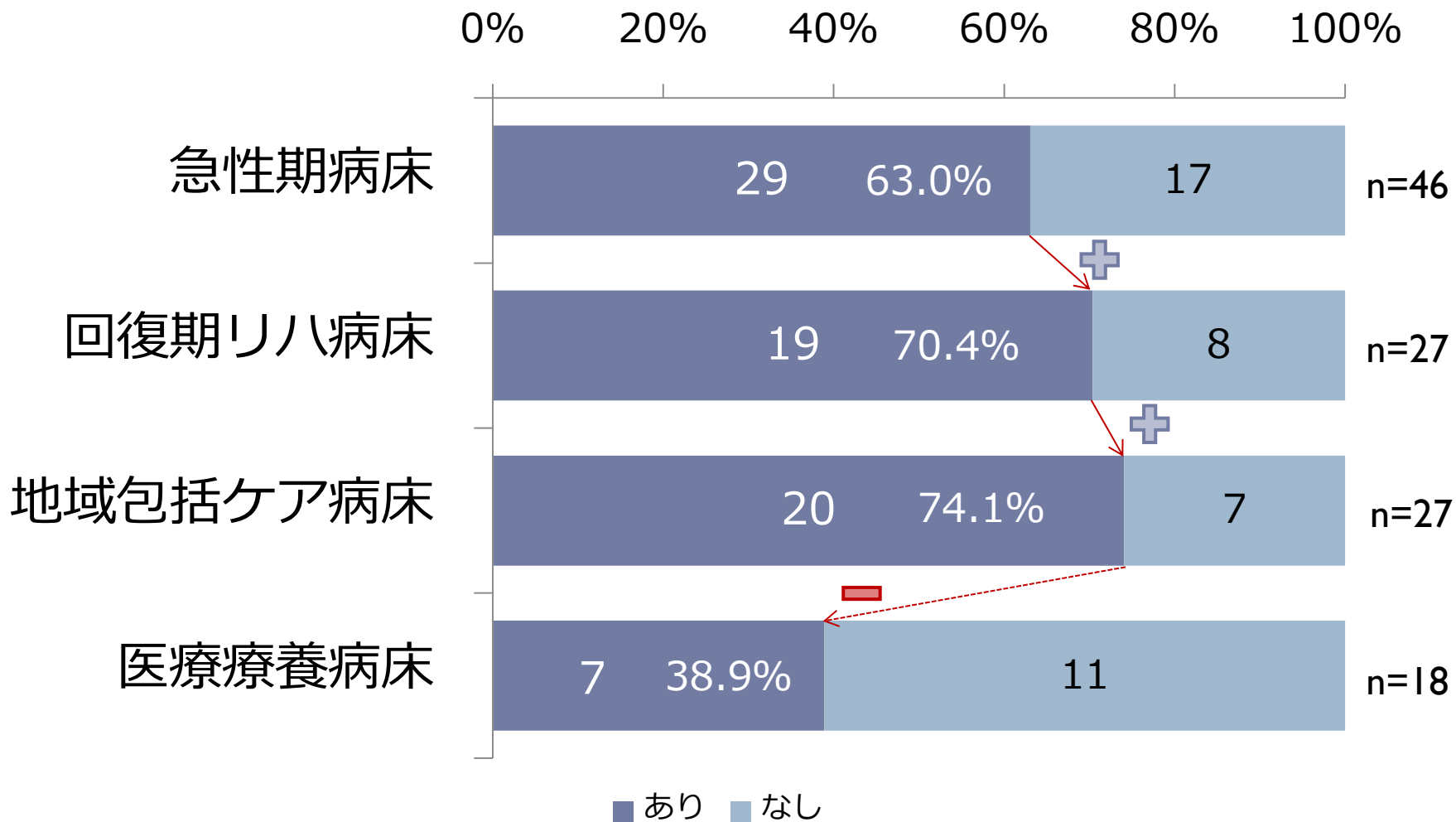
- ▶ あなたの所属施設に〇〇病床はありますか？

- ▶ あなたの所属施設の〇〇病床では間接的介入を行っていますか？
 - ▶ 行っている
 - ▶ 具体的な間接的介入の例を教えてください。（選択：複数可）
 - ▶ 間接的介入を実施するために必要なことはどのようなことがありますか？重要と思うものを3つ選んでください。（選択）
 - ▶ 間接的介入の今後や利点・欠点などのご意見をお聞かせください。（自由回答）
 - ▶ 行っていない
 - ▶ 間接的介入を行わないのはなぜですか？（選択：複数可）
 - ▶ 間接的介入を行うとしたらどのようなことができると思いますか？（自由回答）

回答施設が保有する届出病床



間接的介入の有無



間接的介入の有無について

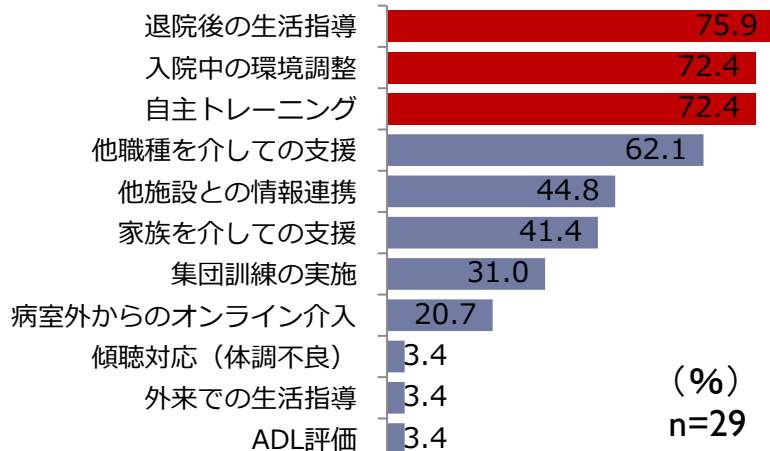
- ▶ 間接的介入実施率の高い順に、**地域包括ケア** > 回復期リハ > 急性期 > 医療療養 であった。
- ▶ 医療療養病棟の間接的介入が**低い**（38.9%）
 - ▶ 医療療養で割合が減少するのは、間接的介入が困難な介護度の高い患者割合が増すため。
- ▶ 上記を背景として、20 分以下の介入ケースが増す可能性がある

具体的な間接的介入の例を教えてください

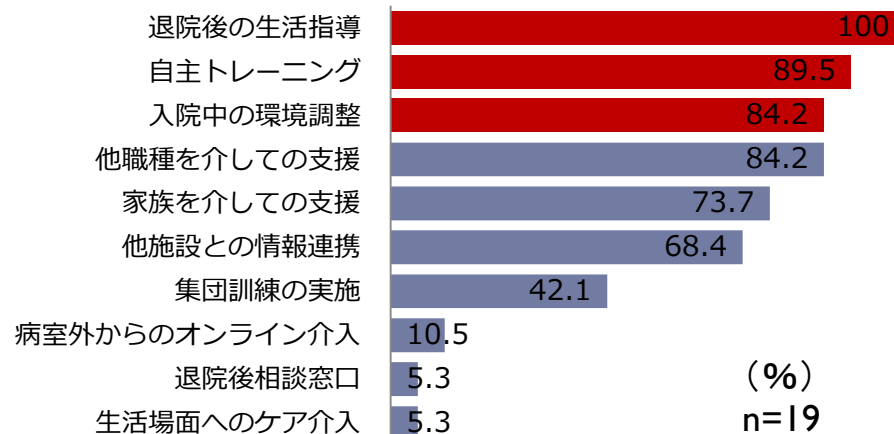
- ▶ **【選択項目】** ※複数回答可
 - ▶ 自主トレーニング
 - ▶ 病室外からのオンライン介入
 - ▶ 集団訓練の実施
 - ▶ 入院中の環境調整
 - ▶ 他職種を介しての支援
 - ▶ 家族を介しての支援
 - ▶ 退院後の生活指導
 - ▶ 他施設との情報連携
 - ▶ その他:

具体的な間接的介入例 | 複数回答可

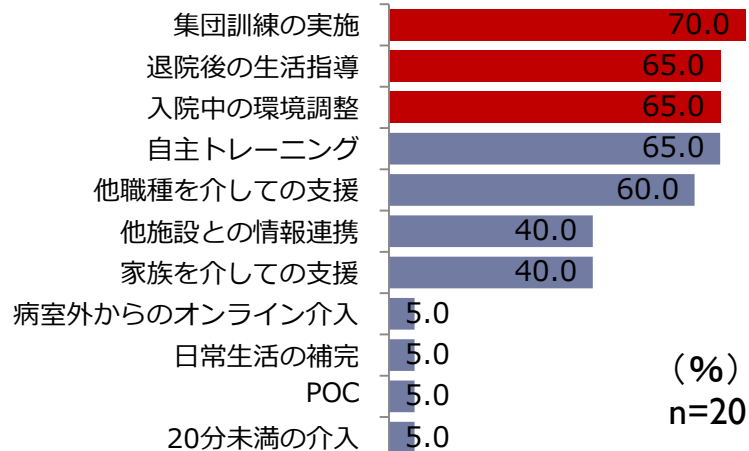
急性期病床



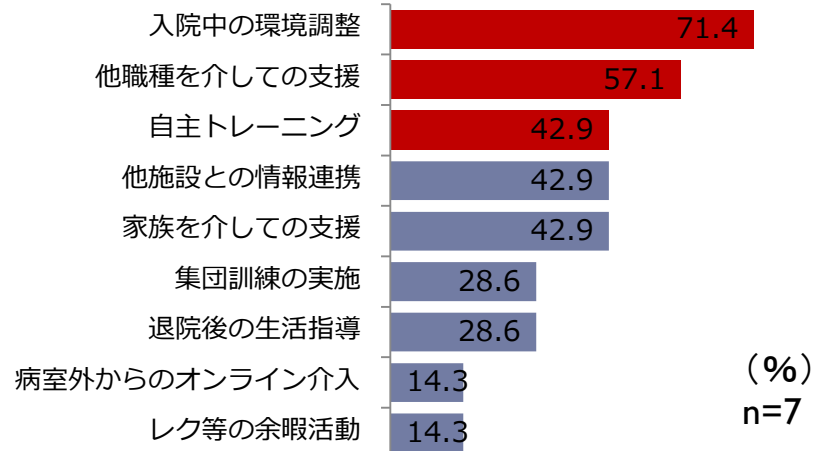
回復期リハ病床



地域包括ケア病床



医療療養病床



具体的な間接的介入例

- ▶ その他（記載例）
 - ▶ 傾聴対応（体調不良）
 - ▶ 外来での生活指導
 - ▶ ADL評価
 - ▶ 退院後相談窓口
 - ▶ 生活場面へのケア介入
 - ▶ 日常生活の補完
 - ▶ POC（point of care）
 - ▶ 20分未満の介入
 - ▶ レク等の余暇活動

具体的な間接的介入例

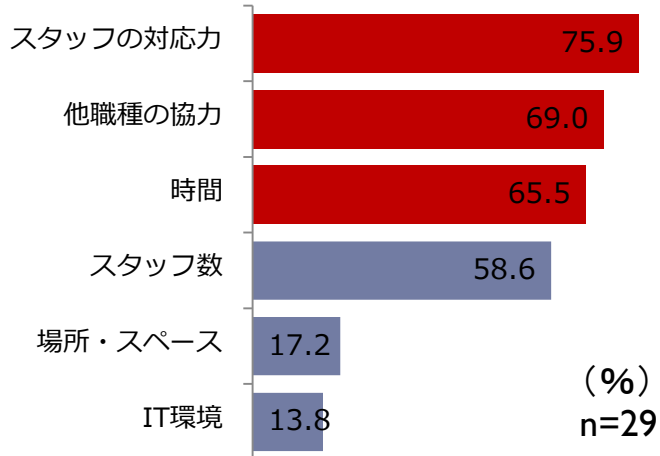
- ▶ 急性期、回復期リハ、地域包括ケアは類似する傾向がある
- ▶ 地域包括ケアは集団訓練の実施率が高い
- ▶ 医療療養は他職種を介しての支援の割合が増える
 - ▶ セラピストの配属数の少なさの影響と推測

間接的介入を実施するために必要なことはどのようなことがありますか？

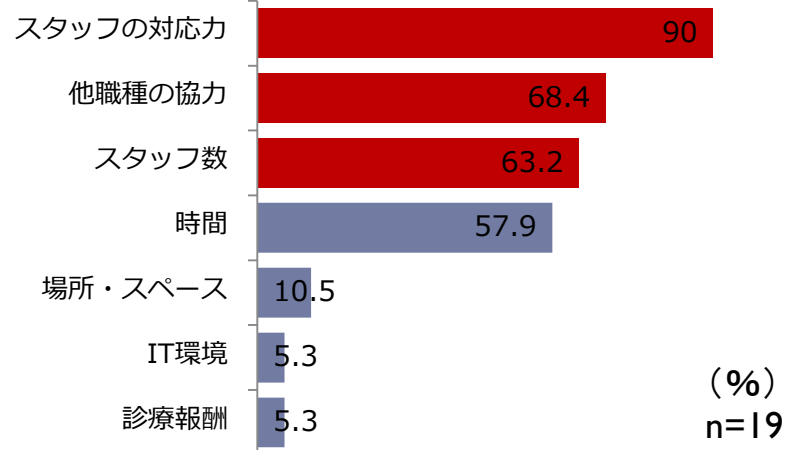
- ▶ **【選択項目】** ※重要と思うものを3つ
 - ▶ スタッフ数
 - ▶ スタッフの対応力
 - ▶ 他職種の協力
 - ▶ 時間
 - ▶ IT環境
 - ▶ 場所・スペース
 - ▶ その他:

間接的介入の実施に必要なこと | 上位3つ

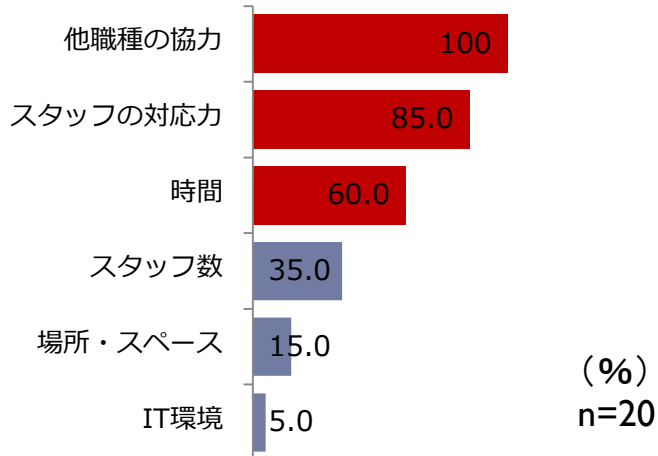
急性期病床



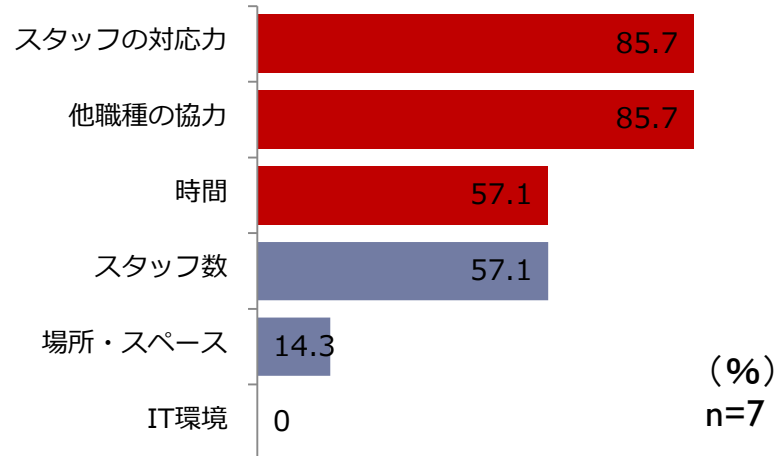
回復期リハ病床



地域包括ケア病床



医療療養病床



間接的介入の実施に必要なこと

- ▶ すべての施設に共通しているのは**スタッフの対応力、他職種の協力**である
- ▶ 他に**スタッフ数**や**時間**が上位に位置している

スタッフの対応力

- ▶ スタッフの対応力とは、リハビリテーションマネジメント力（課題発見力や連携及びマネジメント力）と考察
- ▶ 現在の卒前及び卒後教育においても希薄

間接的介入の今後や利点・欠点などのご意見をお聞かせください。（自由回答）

▶ 回答数

- ▶ 急性期病床 23
- ▶ 回復期リハ病床 13
- ▶ 地域包括ケア病床 14
- ▶ 医療療養病床 7

間接的介入の利点

- ▶ リハマインドを多職種と共有しやすい
- ▶ 保険点数だけではない存在意義の提示
- ▶ 患者を中心とした他職種との意思疎通の向上
- ▶ 患者が安心して退院に臨める
- ▶ ITの活用による効果的な介入
- ▶ 臥床時間減少に伴う早期退院患者の増加
- ▶ 個別療法でなくとも効果が期待できる患者の改善
- ▶ 患者満足度の向上
- ▶ リハ専門職の働き方の効率化
- ▶ 広義のリハビリテーションの実践
- ▶ ピアカウンセリングによる効果

間接的介入の欠点

- ▶ 疾患別リハの時間が削られやすくなる
- ▶ コストが算定できない、収入の減少
- ▶ 時間的余裕がないと職員が疲弊する可能性
- ▶ スケジュール調整が難しい
- ▶ 患者のプライバシーを阻害する可能性
- ▶ 間接業務の拡大が懸念

間接的介入の課題へのコメント

- ▶ 施設基準以外の**加算**や**基本料**で評価されるとよい
- ▶ 間接的介入がリハ専門職種の**生業**となる環境が必要
- ▶ スタッフの**課題解決力**が必要
- ▶ **KPI**などの成果の示し方、経営層や他職種との理解
- ▶ **病棟専従**スタッフがいないと厳しい
- ▶ 直接的介入と間接的介入の選択の**判断基準**が必要
- ▶ 間接的介入時に生じた事故の責任の所在
- ▶ 倫理的に**RCT**で**検証**することが難しい
- ▶ 対応できる人と時間がない
- ▶ 非算定では**質が落ちる**可能性がある
- ▶ 看護師へのタスクシフトは困難

間接的介入への意見について（まとめ）

- ▶ チーム医療の向上が期待される一方、人が関わる前提では資源が不足
- ▶ 成果の可視化やリハビリテーションマネジメント力の不足、間接的介入実施の判断基準などが必要

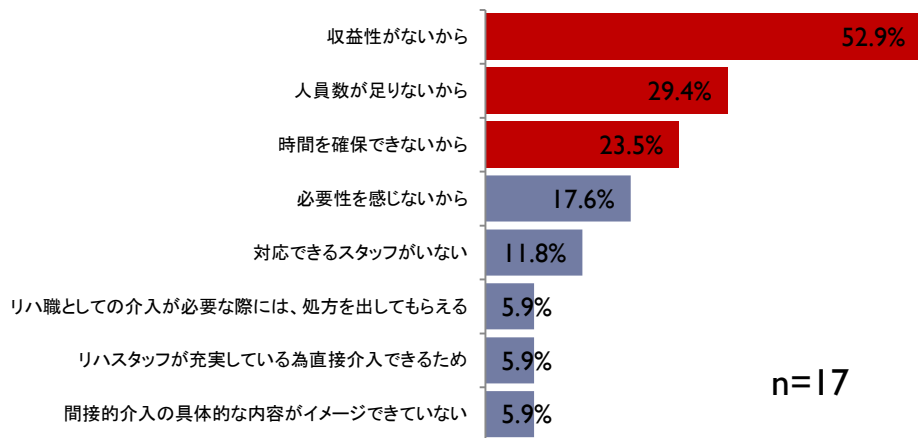
間接的介入を行わないのはなぜですか？

【選択項目】 複数回答可

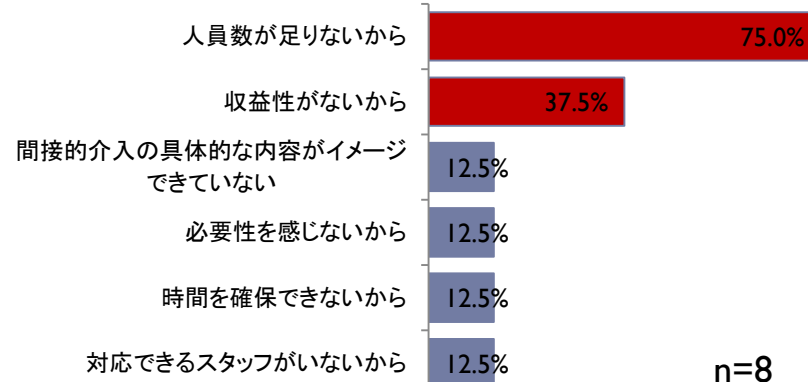
- ▶ 人員数が足りないから
- ▶ 対応できるスタッフがいないから
- ▶ 時間を確保できないから
- ▶ 収益性がないから
- ▶ 必要性を感じないから
- ▶ その他:

間接的介入を行わない理由 | 複数回答可

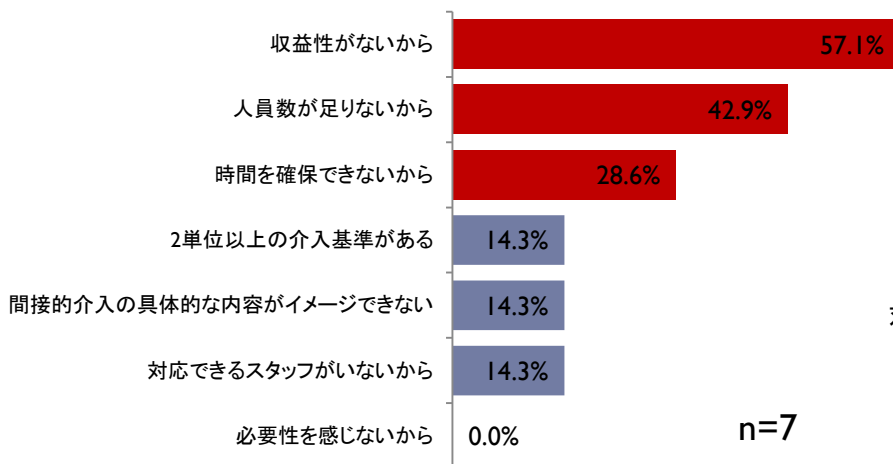
急性期病床



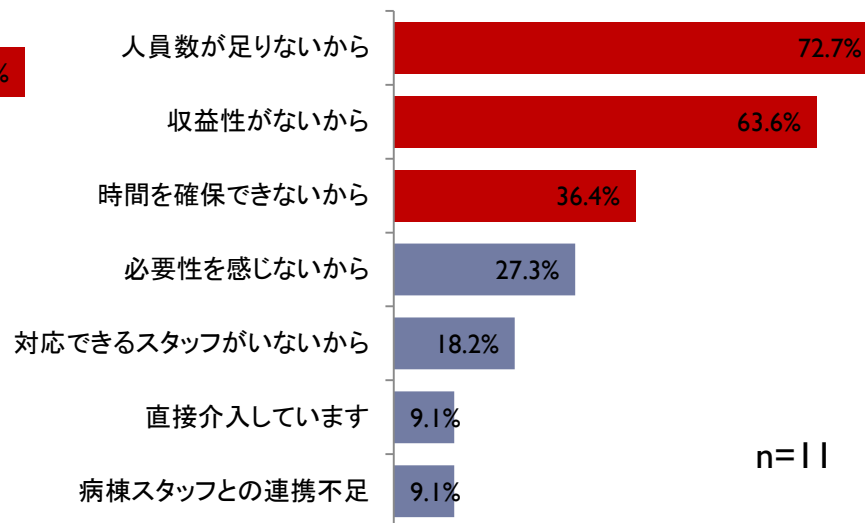
回復期リハ病床



地域包括ケア病床



医療療養病床



間接的介入を行わない理由（まとめ）

- ▶ 理由の上位はほぼ共通している
 - ▶ 収益性・時間・人員不足

間接的介入を行おうとしたらどのようなことができると思いますか？（自由回答）

▶ 回答数

- ▶ 急性期病床 7
- ▶ 回復期リハ病床 4
- ▶ 地域包括ケア病床 1
- ▶ 医療療養病床 6

間接的介入としてできること

- ▶ 離床支援
- ▶ 短時間でのADL場面での治療的介入
- ▶ DM教育入院患者への運動療法指導
- ▶ 体位変換や排痰管理、自主訓練状況のモニタリング
- ▶ 心理的ケア
- ▶ グループでの余暇活動
- ▶ 疾患にとらわれない個別性のある介入

間接的介入を行うための予想される課題

- ▶ 十分なスタッフ数と病棟スタッフの理解
- ▶ 収益に繋がらない活動への認識改善

間接的介入を行うとしたらどのようなことができるか？（まとめ）

- ▶ 想定されている業務内容はすでに間接的介入を実施している施設と類似している
 - ▶ 離床支援や ADL への介入、排痰や体交などの他職種業務への協力など

全体まとめ

- ▶ **地域包括ケア病棟**における間接的介入の実施率は高かった
- ▶ 具体的な間接的介入例では**急性期、回復期、地域包括ケア**では実施内容が**類似**する傾向があった
- ▶ 間接的介入に必要なことに共通しているのは**スタッフの対応力、他職種の協力**であった
- ▶ 実施施設の間接的介入の課題については、チーム医療の向上が期待されるが、人が関わるため**資源が不足すること、成果の可視化やリハマネジメント力の不足**などがあげられた
- ▶ 未実施の施設においても実施困難な理由として上記と同様な傾向があった（**時間・コスト・人員**）

今後の間接的介入におけるキーワード

- ▶ リハ専門職としての能力向上
 - ▶ スタッフの対応力（課題発見力や連携及びマネジメント力）＝課題解決力

- ▶ デジタル化やDX
 - ▶ 時間・コスト・人員